



平成25年成人式

1月13日、平成25年成人式が行われ、文化センターには新成人567人(対象者は693人)の参加がありました。式典後にはロンドンオリンピック女子重量挙げ48キロ級6位入賞の水落穂南選手を始め、新成人の主張が行われ、会場は歓声と熱気に包まれました。



埼玉県電気工事工業組合と協定を締結

平成24年12月17日、市は街頭犯罪や侵入窃盗などの犯罪防止を目的として埼玉県電気工事工業組合(事務局：さいたま市)、鴻巣警察署、鴻巣市との四者の間で「防犯のまちづくりに関する協定」を締結し、調印式を行いました。



株式会社カインズと協定を締結

平成24年10月31日、市では、大規模な災害が発生した場合の市民生活の安定を図るため、日用品等の生活に必要な物資を供給してもらう「災害時における生活物資の供給に関する協定」を株式会社カインズと締結しました。



あだち野農業協同組合と協定を締結

平成24年12月20日、市では、災害が発生し、被災者を救済するため応急生活物資が必要な場合に、他の業務に優先して応急生活物資の調達および安定供給を行う「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を、あだち野農業協同組合と締結しました。

市長のほっと・とーく
地名でたどる北本の歴史

地名を調べると、その土地ならではの歴史や風土、特徴などに由来するものがたくさんあり、先人たちの暮らしを垣間見ることが出来ます。市町村合併後の市の名前の中には、とってつけたようで首をかしげたくなるようなものもありますが、昔からの地名は、その命名の由来を想像するだけで楽しくなります。

北本市の地名にもそういったものがたくさんあります。

「深井」は深い井戸があったから、「高尾」は高い所を意味するタツコがなまって変化した、「宮岡」は神社が集まっていることから、「ニツ家」はその昔、人家が2軒くらいしかなかったからというの、北本ご当地検定で言うところの初級問題といったところでしょうか。今も住居表示として使われている「深井」、「高尾」は江戸時代の旧村名です。「ニツ家」や「宮岡」は村より小さい区分の「字名(あざめい)」でした。

何といたってもユニークなのは、かつて小字として残されていた地名です。「稲荷」、「鯉沼」、「権現堂」、「雑木林」、「城山」、「城中」、「月夜」、「市場」、「鉄砲宿」、「十三墳」などは、往時の風景が思い浮かびます。

「徳ノ道」、「善徳」は一体どんな由来があったのでしょうか。

「旧村名」では「花ノ木」など気分が浮き立つようです。

いずれの地名も今は使われなくなりましたが、それがとても残念です。



北本市長 石津 賢治